

大町桂月 随筆家、詩人、評論家。吃者として苦勞し優しい人柄で、酒と旅を愛した風流人。和漢混交独特の美文。

おおまつけいげつ
戊辰戦争終・1869 =

高知市北門筋で、元土佐藩士の子に生まれる。名は芳衛。

雅号の桂浜月下漁郎はよさこい節にも唄われる月の名所桂浜に因み、桂月はそれを縮めたもの。

明治6年政変 1873 = 4歳 :

大久保暗殺・1878 = **9歳** :

・・・・・・1880 = 11歳 : 上京し、

明治14年政変 1881 = 12歳 :

国民之友始・1887 = **18歳** :

帝国憲法発布 1889 = 20歳 :

東京帝大在学中から{帝国学}の編集委員になり、いわゆる赤門派(大学派)の文人といわれる。

日清戦争始・1894 = 25歳 :

白馬会・・・・1896 = **27歳** : 東京帝大文学科を卒業。*「美文韻文花紅葉」(武島羽衣、義兄塩井雨江との共著)、

子規句歌革新1898 = 29歳 : 「美文韻文黄菊白菊」に詩人・美文家としての剛直な個性と文体が示されている。

Bushidou・・・・1899 = 30歳 : 島根県で簸川中学の教師として奉職。

ピア/国産化・1900 = 31歳 : *評論の代表作「文学小観」。{博文館}に入社し、

田中正造直訴1901 = 32歳 : 「一蓑一笠」、

かたわら、{太陽}{芸芸倶楽部}などに芸芸評論・紀行文・随筆を発表、美文家として知られ、特に和漢混在の独特な紀行文は広く読まれた。和漢古典や教育への関心も強く、伝統に基づく進歩の立場を打出す。

日露戦争始・1904 = 35歳 :

それまで評価し親交していた与謝野晶子が{明星}に「きみ死にたまうことなかれ」発表すると、{太陽}誌上で非難、これに対して晶子も{明星}で反論。これが、現在大町桂月への評価が低い理由にもなっている。

日露戦争終・1905 = **36歳** :

満鉄発足・・・・1906 = 37歳 : _{博文館}を退職。

伊藤博文暗殺1909 = 40歳 : 「行雲流水」、

韓国併合・・・・1910 = 41歳 : *この頃から、富山房の「学生」を主宰、

大逆事件判決1911 = 42歳 : 北海道各地を旅行してその魅力を紀行文で紹介、この年、層雲峡に挑み、その名付け親になる。また、山案内人の成田嘉助らと未開の大雪山を縦走。その厳しい道中、同行者が桂月の人柄に感銘を受け、敬慕の心から黒岳近くの峰に桂月岳と名付けた。

明治天皇没・1912 = 43歳 :

第一次大戦始1914 = **45歳** :

本格政党内閣1918 = 49歳 :

この年、羽衣の滝を発見し、その名付け親になる。38年ぶりに、故郷の土を踏んだ桂月が、同郷の愛弟子田中桃葉と、この桂浜に遊歩した折の作歌「見よや見よ みな月のみのかつら浜 海のおもよりいづる月かげ」は、没後、桂浜に建てられた碑に刻まれている。*この頃まで続けて、青少年の修養面にも尽力した。

原敬首相暗殺1921 = 52歳 :

水平社結成・1922 = 53歳 : 翌年にかけて「桂月全集」全12巻が刊行される。

関東大震災・1923 = **54歳** :

吃者として苦勞し優しい人柄であったが、終生酒と旅を愛し、「酒仙」とも「山水開眼の士」とも称され、晩年は、朝鮮、満州まで足を伸ばしている。青森県の十和田湖と奥入瀬をこに愛し、晩年は薦温泉に居住、

治安維持法・1925 = 56歳 :

本籍も薦温泉に移したが、ほどなく胃潰瘍のため、没した。

与謝野晶子は{横浜貿易新報}に追憶をよせている。